

此の年限に至て大成する處ありと假定せんには、今後此年齢に至る迄の年数は、吾人が始めて呱呱の聲をあげたる時より今日に至る迄の年數よりも多きと著之、然らば今後の三十年間に吾人の得る知識は、今日以前の二十年の間に比して甚大なるものあるべきを知らん、殊に今日以前の二十年の間東西をも辨へざりし數年あるを思へば、此の感益々甚しかるべし、されば吾人今日愚なりと雖尙失望するに及ばず、孜孜として勵みなば、今後の成功期すべからざるにあらず、獨り自ら慰むること此の如し。

○昔、聖、耶、蘇、自、ら、袍、を、脱、て、弟、子、の、足、を、濯、ぶ、而、か、も、其、耶、蘇、た、る、の、價、値、を、上、下、す、る、な、し、自、ら、先、づ、帽、を、脱、し、て、禮、す、る、も、我、か、我、た、る、に、於、て、何、の、關、す、る、所、あ、ら、ん。

文 苑

和 歌

河上紅葉

柳

男

ふけば散る散れば流るゝ谷川の紅葉に風のたもえろき哉

適 意

ちりの世のうさもわすれてたのしきは峰の松かせ谷川の音

題しらす

名にえねへば清むべきものを白川の濁れる見るどかなまかりける

若葉

若葉生

春風のよとむ河上かほらに吹きたはて霞に眠る川やなきかな

浦 曉

ほのくくと明けゆく空にぎりたちて潮のひかたに月落ちにけり
ほのくときりのむら立松こめてあけゆく空に残る月影
筑紫がた朝しはさまで有明の月かけ送る濱の松風

花手折る人のありければ

青 冥

あすは我袖にちるども知らてをる人のこゝろをあはれなりける

羈旅春

鉄 州

春風の吹き来るなへに思ふかなわが舌郷の花はいかにと

春眺望

春風のそよ吹く野邊を分けゆけばそでにみどりの浪そより来る

藤崎神社の藤

千代を經えみどりの松もむらさきのいろにはへる藤波の花

春 海

松浦がた瀬戸の霞のおく深くわきてこき入る海人のつり舟

阿蘇の春景

たちのはる煙の末も霞むなりあその奥にも春いたらし

名所春夕

夕されば霞のたぐのひら山もむらさき深き粟津の原

古郷螢

ふるさとの思もしけき夏草に夜はもえつゝとふ螢かな

花見てかへりくる人に

桃

君か見しあどの櫻のあるじと霞のおくにあすはとはまえ

拜聖庵の夜櫻を見て

咲く花も月もひとつにかすみけりたつたの山の春の夕くれ

咲きにはふ花の色香にさそはれておほるに照らす春の夜の月

春月

かくてこそあはれ深けれ春の夜のかすみの中にはふ月影

雨中柳

つれくどなかめくらまつ春雨の細き柳のいとながき日を

花

偽りのこの世の中に咲き出でゝ春をたかへぬ山さくら花

歸雁

うしと見てかへるなるらんきのふけふ花になりゆく空のかりかね

春田氷解

赤

雪

江

小山田の氷もけふはとく消えてさし渡よする春かせの吹く

深山櫻

人に似ず木の間がくれの深山路に咲ける梢の花のゆかしさ

山雲

うときなき富士の高峯をあさ夕に姿をかへて見する村雲

閑居花

塵の世をよそにみやまのかくれかにさける花こそまつけかりけれ

燕來遲

春もはや半すぎぬる今日までもよはぬ燕のまたれぬるかな

霞中松

のどかなるけえきなりけり春霞たなひくそこの三保の松原

漢詩

春夜

長尾雨山

花林香霧籠斜陽柳堤澹烟迷春望千家簾幕締霞綺玄都桃連碧鷄棠花稠艸座選妓舞
綵樓雕憶貴客觴春日遲々猶苦短蘭膏銀燭樂未央西樓有人心恨誰深坐背月斂蛾眉
傾見東莊春嬉宴悵抱瑤琴下手遲一彈再彈寒玉臂三彈四彈曲調悲欲語幽怨曲慙緩
聽者歔歔肝腸斷去年王師征遼朔良人仗劍從虎幄赴敵奮鬪向無前首功獨稱萬人擢